

ジョイセフ・パートナーシップ・プログラム (JPP) アフガニスタン 妊産婦と女性を守る保健推進プロジェクト 2016 年報告書



プロジェクト期間： 2016 年 1 月～12 月
プロジェクト地域及び人口： ナンガハール州ジャララバード市郊外の 10 村 3 万 4000 人
現地協力団体： アフガン医療連合センター (UMCA)
支援協力： 三菱東京 UFJ 銀行および三菱東京 UFJ 銀行社会貢献基金、全国電力関連産業労働組合総連合、公益財団法人ベルマーク教育助成財団他、企業・団体・個人からの寄附金

長く続いた紛争により、アフガニスタンでは多くの保健医療施設が破壊されました。また、女性の医療従事者がいなければ、女性は病院で診療を受けることができないといった慣習に根ざした課題も残っています。

そこで、ジョイセフでは、ナンガハール州ジャララバード市郊外の農村地域において、女性の保健スタッフを多数配置した母子保健クリニックを運営し、のべ 2 万 5300 人の女性と母子に、保健医療サービスを無償で提供しました。



クリニックでは、診療の待ち時間を活用して保健指導も行い、女性が健康を守るために不可欠な知識も伝えました。

1) 母子保健クリニックでの保健医療サービスの提供

プロジェクト地域の妊産婦と女性、子どもたちのべ2万5300人に対し、保健医療サービスと産前・産後ケア、施設分娩、避妊薬（具）の提供、予防接種など母子保健に関連したサービスを提供しました。また、7600人の子どもと女性にBCG、三種混合、ポリオ、麻疹、破傷風の予防接種を実施しました。



（左上）女性患者への点滴治療を行う女性保健スタッフ（右上）予防接種に訪れた母子（左下）薬の処方
（右下）経口ポリオワクチンを接種する女児

2) 母子保健の啓発教育活動の実施



診療の待合時間を活用し、クリニックスタッフより、妊産婦と女性のべ1万9200人に対して、以下のトピックに関する個別カウンセリングや啓発教育活動を行い、母子保健と疾病の予防に関するメッセージを伝えました。

- ・産前産後健診
- ・家族計画
- ・母乳育児
- ・予防接種
- ・感染症予防
- ・衛生
- ・薬の摂取および保管方法 など

その他の活動

栄養改善の取り組み

妊産婦と5歳未満児の栄養不良の問題を改善するために、アフガニスタン政府は、2016年より、国連世界食糧計画（WFP）の支援を受けて栄養改善プログラムを開始しました。地域の保健医療施設と連携し、栄養不良の妊産婦と5歳未満児を対象に、食糧を支援する取り組みです。

ジョイセフが運営する母子保健クリニックもプログラムに参加し、腕回りの計測（写真左）で栄養不良と判断された妊産婦と子ども1670人に、WFPより支給された小麦粉、植物油、食塩、豆等に加えて、ビタミンやミネラルの微量栄養素タブレットを配付しました。



助産師研修

母子保健クリニックでは、アフガニスタン公衆衛生省の委託を受け、助産師を目指す学生138人に実地研修も行いました。クリニックの助産師、予防接種担当スタッフ、薬剤師が指導にあたり、学生たちはアシスタントして実際のサービスの提供も体験しました。

